

「筑波山ツアーの事務局を経験して」

会員 仲田篤子

いままでイワクラ学会主催のいろいろな研修旅行に参加して、地元の方々のお世話でもとも個人旅行では味わえないような、楽しい思いをたくさんさせていただきました。

今回、皆様のお世話をする側を経験して、ただ参加するのでは大違いの事務局の大変さも垣間見ることができましたので、これから研修ツアー事務局をしていただく方たちの参考になりますように、また事故なく楽しいツアーができますようにと願い、今後に役立てていただきたく反省点などを書かせていただきます。

当たり前のことばかりのようですが、学会本部事務局自体がまだ確立された体制ではなく、常駐スタッフもいない状況です。その上に年齢差、体力差の大きい集団で、しかも巨石を見ると皆さん子供のようになってしまうという特徴を持っているのですから、素人がまとめるのは大変な努力を必要とします。それと意外だったのは都会では便利な携帯電話も山中ではまったく無力だったということです。そういうところを思いつくままに書き綴ってみました。ご覧

下さい。

ツアー事務局の仕事

一 全体計画

- 1 場所、目的を選び、その計画に相応しい講師を決める。
- 2 事務局のメンバーとスタッフ（案内人、様々な協力者も含む）となる協力者を決める。私の判断では参加者の1/8に相当するスタッフ数は必要だと思えます。
- 3 参加人数の上限を設定する。今回の四五名という人数は全員が一度に行動するには限界を超えていました。
- 4 ルートを細かく下見した後、参加者を募集し案内する。所要時間や難易度、トイレの場所などを予め把握しておくこと。
- 5 参加者を受け入れる側になる地元集団と予め十分な意思疎通しておくことがとても大切であること。予定通りに進まないことが発生した場合、地元の力がモノを言う。
- 6 見学ルート、タイムテーブルのわかる地図（資料）を作成しておく

こと。

7 悪天候時はどうするか、体力に自信のない人が動けなくなった時はどうするか、帰りの時間に制限のある人たちの緊急用ルートはあるのか。いろいろな場面を想定して計画を立案しておくこと。

8 宿泊、懇親会、お弁当、バスの手配。

9 申し込み時に公開して良い個人情報、たとえば、名簿に書く内容などを確認しておく。

10 緊急時の対策。イベント保険に加入する。

二 集合時・見学时

1 『参加者名簿』を作り、常に存否を確認して移動すること。必ず必要になるのがバスの座席表。忘れずに作ること。

2 参加者の携帯電話番号を確認し、名簿に登録すること。同時に、緊急時に備えたスタッフ連絡先（できれば複数）を知らせること。

3 人数が多い場合、無理に減らす必要はないが、多少制限する必要があることも覚悟しておくこと。

また多少に関わらず、参加者をグループ分けした上、リーダーを決め、

小単位で行動するようにすること。

十人くらいが適正人数だと思う。

4 参加者全員に目印となるネームホルダーなどを着けてもらう。今回、「行方不明者」を捜索した時、目印

のカラーリボンが大変役に立ったと鈴木副会長が語っていたのは印象的でした。

5 先頭と最後尾のスタッフがトラংশーパーで連絡し合って行動すること。メガホンかハンドスピーカーが必要ではないでしょうか。

三 宿泊・懇親会

1 部屋割り表をつくる。偏った配置にならない様、事務局責任で実施する。

2 懇親会時も多く皆さんの交流目的で集まるので声を掛けやすい様全員にネームホルダーをつけていただく。

3 公開して良い情報のみを記入した出席者名簿を配布する。

四 学会本部（または地方単位）

ブロックの役目

1 ネームホルダー、メガホン、トランシーバー、救急箱などを常備して置き、必要に応じて貸し出せるようにしておく。

2 イベントの開催告知を広い範囲で行い、保険の加入をしておいていただきたい。

3 地方ブロック事務局がなければ、数人の会員がまとまって現地に「サテライト事務局」を作り、資料コピーや郵送などを自主的にできる様に体力を強化すること。

4 全国の会員相互間で通信するための学会専用のメーリングリストか、掲示板を用意することができないか。

いろいろな方面で知識も経験も人脈もお持ちのご年配の会員もいれば、IT系に強い方、体力には自信ありの若者もいます。会員の皆さんが、それぞれできることを助け合っただけかなくってはいけない状況だと思えますし、そういう力が活かせる体制ができると思います。ツアーに参加される方もそんなつもりで、ちよつとお手伝いしていただけると

事務局はきつと助かります。

言うまでもありませんが、地元との連携が不可欠です。今回の筑波山ツアーでは、地元の「古代筑波研究会」の方々には大変お世話になりました。ありがとうございます。

最後に、宮崎サミットでの経験をいろいろと教えて下さった谷口実智代さんに感謝致します。